

島根県における旧保健婦養成の足跡

落合のり子・栗谷とし子*

概 要

島根県における旧保健婦養成所卒業生会による「草わけの保健婦養成」には、養成所時代のさまざまな記録と共に卒業生を対象としたアンケート結果が掲載されている。一期生は、卒業期における業務内容として、乳幼児や結核患者の家庭訪問、共同炊事・農繁期託児所指導、地域への保健婦活動のアピールを挙げている。地域住民に保健婦の仕事を説明し、分かってもらうことの難しさ、そして何も土台がない所に新しいものを創り上げることの難しさは現代にない苦勞の連続であったと推察される。具体的な状況の記録は少ないが、保健婦活動の手記や当時の新聞記事を手がかりに、家庭訪問、農繁期託児所、保健婦劇による保健婦活動のアピール、研究発表等について資料の解説を試みた。

キーワード：保健婦養成、農繁期託児所、保健婦劇、農村実習

I. 序 論

島根県における保健婦養成は、島根県松江社会保健婦養成所と同濱田社会保健婦養成所において、昭和15年10月から県の自主的な計画に基づいて開始された。その特徴として、入所資格を高等女学校卒業生とし、修業年限は2年間であったこと、養成所を教育の場である県立高等女学校に併設したこと、設置主体を社会事業協会とし、潤沢な教育予算を確保したこと、中央の指導者による企画と支援があったこと、保健婦は生活指導者であり社会事業家であることが求められたこと、卒業後の義務を課さないことなどが挙げられる（島根県立総合看護学院：1998）。

当時、全国の保健婦養成は聖路加女子専門学校、日本赤十字社、大阪府社会衛生院での養成のほか、助産婦や看護婦免許取得者を対象とした数日間から数週間の促成教育によるものなど、さまざまであった。島根県の保健婦養成所は昭和16年制定の保健婦規則に先駆けて設置され、その後、全国で最初に第一種養成所の指定

を受けた。この先駆的な取り組みは、全国的に組織だった保健婦養成の糸口となり、養成所設置の気運を盛り上げたと高く評価された（大国：1973）。

保健婦事業自体が開拓事業である時期に、島根県で先進的に保健婦養成所が設立された背景としては、全国に比して高い乳幼児死亡率や結核死亡率により農村保健への対応の必要性が挙げられる。養成所の設立を推進したのは島根県学務部長加藤精三氏の思想と行動力に負うところが大きかった。当時、厚生省人口局で保健婦規則や保健婦の養成制度の整備に従事していた保健婦の金子光は、第一種保健婦養成所の第一号となることを加藤氏が強く希望したと記している（金子：1994）。

この時代日本は、昭和12年から始まった日中戦争の真只中で、強力な兵力を必要とし、健兵健民政策の一環として全国に保健所網が敷かれ（昭和12年保健所法）、国民健康保険法（昭和13年）に医療給付と併行し、保健施設事業として市町村に保健婦を設置することをうたい、厚生省が設置（昭和13年）されたところであった。島根県で一期生の養成が始まって約1年後の昭和16年12月、真珠湾攻撃を契機として、日本は太平洋戦争へ突入し、出征していく人が日増し

* 島根県立大学短期大学部松江キャンパス

に多くなっていった。

この島根県における保健婦養成は、戦後の保助看法による教育が開始されるまで10年6ヶ月継続し、197名の卒業生を送り出した。卒業生会による「草わけの保健婦養成」には、養成時代のさまざまな記録と共に卒業生を対象としたアンケート結果が掲載されている。一期生は卒業期における業務内容として、家庭訪問、共同炊事、農繁期保育所指導、地域への保健婦アピールを挙げている（島根県立保健婦専門学院・島根県保健婦養成所卒業生会：1985）。

地域住民に保健婦の仕事を説明し、分かってもらうことの難しさ、そして何も土台がない所に新しいものを創り上げることの難しさは現代にない苦勞の連続であったと推察される。

当時の具体的な状況の記録は少ないが、保健婦活動の手記や当時の新聞記事を手がかりに、家庭訪問、農繁期託児所や共同炊事、町村実習、映画や保健婦劇による保健婦活動のアピール、研究発表、家庭訪問等について理解を深め、今後の保健師教育の参考にしたい。

なお、資料となった新聞記事は、約70年前の新聞のマイクロフィルム版であり、■■■で表した部分は、文字が潰れて判読できなかった箇所である。

Ⅱ. 本 論

1. 農繁期託児所や共同炊事

昭和16年1月に閣議決定で人口政策確立要項が制定され、世の中は「生めよ殖やせよ」の時代となっていった。いわゆる健兵健民政策で、保健婦は母子保健指導に重点をおいて活動し、子どもを増やすことに努力した時代である（金子：1994）。

農村においては、春秋の農繁期に季節保育所や共同炊事所を設置していた。出征兵士が多くなるなか、季節保育所は児童保護と食糧増産の国策に沿うため、共同炊事は燃料費の節約や食事作りの手間を省くために行われた（加茂町合併70周年・閉庁記念誌編集委員会：2005）。

資料1・資料2からは、当時の託児所に大きな期待が寄せられていたことが分かる。養成所の一期生の頃は、いかにして地域へ保健婦をア

ピールしていくかに重点がおかれ、多くの人との触れ合いの場として、託児所や共同炊事への働きかけも大切と考えられていた（島根県立保健婦専門学院・島根県保健婦養成所卒業生会：1985）。

<資料1>

「模範的農繁期託児所 島根で四ヶ所

輝く二千六百年記念に愛育会で選奨」

山陰新聞 昭和15年10月27日（日）

恩賜財団愛育会では、紀元2600年を記念して来月10日の式典に時局下に重要役割をつとめてゐる全国農繁期託児所10,000ヶ所の中から、300ヶ所の模範託児所を選奨し賞状と赤、黄、緑の3色の長さ一丈幅二尺の長旗を贈る事になりましたが今回選奨の結果推薦されたもので開設■■■年限5年以上在籍児児童が50名以上を原則とされてゐますが50名以下であってもその数十名以上であつて、成績があがつてゐる優良な施設のある所は選ばれてゐます。この農繁期託児所は、農山漁村の勞力不足の緩和のために、大きな手柄を立ててゐる事はいふまでもありません。

春の麦刈り、秋の刈入れの二期に小学校、社寺、公会堂、集会所、共同作業所、教会等が急遽託児所として開設され年々増加の勢を示して今年も春秋の二期を通じて全国2万ヶ所も開設されるまでに発展してきました。この種の託児所の必要さは勞働力不足のみではありません。これを広く農山漁村の児童の養育の方面からみても無くてはならぬ施設であつて、従来とかく放任されがちだった農村児童の小学校就学前、殊にその幼児期の教育的役割を果たしてゐる事はいふまでもありません。但し現在の託児所施設として乳児保育できないことが欠点とされてゐますが将来施設の完備に対しては、大いに留意して改善せねばならないといはれてゐます。新体制下に「子供は国家の子供」と強調されてゐる折柄、私共は農村厚生運動の重要な役割を持つ農繁期託児所に大きな関心を払わなければなりません。中国地方では選奨の榮譽を賜つた農繁期託児所は次の通りです。

鳥取県 稲葉保育園他2カ所
 島根県 西雲寺保育園他3カ所
 岡山県 ■■■島町農繁期託児所他3カ所
 広島県 船木村託児所他4カ所
 山口県 ■道■第一農繁期託児所他4カ所

<資料2>

「保健婦第一戦へ 県下保育所と共同炊事」

島根新聞 昭和16年4月22日

農繁期の近迫に伴ひ県では食糧増産に挺身する農家の手助けに乳幼児保育所や共同炊事の開設と奨励普及に拍車をかけるため準備をすすめてゐるが、今年の保育所は前年より百ヶ所を増し400ヶ所を目標に市町村、産業組合、農会、国民健康保険組合その他と連絡をはかり合理的経営に乗り出すこととなつたが、共同炊事は労力調整といふ見地より農民の保健運動として各部落を単位に実施することとし■■■■実行組合が経営母体となつて、県、各種公共団体、農業団体指導の下に奨励してゐる。今期からは保健婦も第一線に立ち婦人会、女子青年団、女子中等学校生徒の応援もあつて共同炊事に対しては栄養食の改善、配給に考慮を払ひ■■■■を出来る限り利便に配給する予定であるが、これ等農村の共同施設には国庫その他から奨励金の交付もあり、保育所に対しては県下五千円、共同炊事経営には同じく約六千円が計上されている。

2. 保健婦PRのための映画

保健婦や保健婦活動を国民に理解してもらうために、映画を製作しPRする方法が企画された。島根県の保健婦養成は、全国の注目を集めた先駆的なものであつたため、人口問題研究所長の館稔（たちみのる）氏の推薦により、一期生の養成中に映画関係者の企画視察があつたとの新聞記事が残っている。松江の養成所と現安来市にある荒島保育園が撮影に先立って視察を受け入れている。館氏は養成所の特別講師であり、人口問題と社会現象を詳しく説明し、学生達に保健婦の機能を明確に示した教師の一人である（島根県立保健婦専門学院・島根県保健

婦養成所卒業生会：1985）。

この映画については、その後の記事がなく詳細は明らかでない。戦時色が濃くなる時期と重なり、撮影が継続されたのか、完成したのかどうかも判明していない。新聞には女学生の作った保健婦劇（後述）も加えたいとあり、養成所のユニークな教育内容が当時大変注目されていたことが分かるのみである。

同時期に厚生省が大船の松竹映画製作所に依頼して製作した保健婦の劇映画「女の手」は、全国の映画館で上映された。原作は舟橋聖一、キャストは医師役に佐分利信、保健婦役に水戸光子、保健師長役に赤木蘭子が制服姿で出演している。昭和17年にクランクインし、映画のなかの保健婦の仕事や家庭訪問指導などの技術指導を金子光氏が行つた（金子：1994）。

<資料3>

「誇れ保健と保育 いよいよ文化映画になる」

山陰新聞 昭和16年10月11日（土）

文化映画になる島根県の保健と保育の施設 - 県立松江高等女学校の保育科および社会保健婦養成所などの学園の厚生指導施設と能義郡荒島村保育園の社会実施の保健の実況を文化映画におさめるため8日来県した松竹大船文化映画部、大日本文化映画製作所企画課坂根實夫氏ならびに同監督部丹生止氏は既報のごとく8、9両日県および県立高女との打合せをすませ、10日午前9時から県立高女保健科生の活躍と保健婦養成所で10日から実施する三浦指導員指導の乳幼児沐浴実習その他施設を視察、荒島保育園を訪問12日帰京するが、坂根松竹企画課員は語る。

厚生省人口局でも館人口問題研究所長も島根県の保健施設はすばらしい日本一だと推薦され私たちも学校を視察してすばらしく優れてゐる事を知つた、この女学校と農村で代表的な社会的施設のある荒島村らの保育園の実況は11月上旬来県撮影しておそくとも来春は完成させたい、題名は未だ決めていないが■■■■ものでこちらの女学生が保健科の活動を劇化した演劇も同時に加えたいと思ふ。

3. 学生による保健婦劇

一期生は、農村実習の報告会で各自の貴重な体験や意見、感想を報告し合った。さまざまな体験を通して、今後赴任した後に、どのように仕事を進めていったらよいか、地区の人々への働きかけをどうするかを真剣に考えた結果、保健婦の活動を劇にして仕事のPRをしてはどうか、と考えるに至った。実習で体験した場面を脚本にし、クラス全員が総出演で演出に工夫を凝らし、舞台作りや衣装、小道具などお互いに持ち寄り、手作りするなどした。そして実際に保健婦劇を近くの町や村で上演し、衛生教育を含めた活動を行った（島根県立保健婦専門学院・島根県保健婦養成所卒業生会：1985、86-87）。

養成所の講師であった永野貞(旧姓三浦)は、「この保健婦劇は、出雲弁丸出しではあったが、農山村の嫁と姑の育児や食習慣に関する会話が折り込まれていて大変面白くかつ教えられることが多かった。重苦しい時代に一瞬の笑いと保健指導上のヒントや反省を与えた」と述べている（島根県立保健婦専門学院・島根県保健婦養成所卒業生会：1985、63）。

資料4は、長期実習（6ヶ月）が始まるにあたって行われた修了式で、保健婦劇が上演されたという紹介記事である。その内容は健康相談所の紹介や保健婦が家庭訪問する様子、農繁期託児所での保育の実際、傷痍軍人遺家族への支援に関するものであったことが推察される。

一期生は実習の報告会の他、東京・大阪・滋賀への研修旅行、島根県方面委員総会（現民生委員）等で繰り返し上演した保健婦劇を通して、保健婦としての役割を認識すると共に、地域住民にかかわる際のコミュニケーション能力を身につけていったのではないかと想像できる。

<資料4>

「巣立つ首途に保健婦劇を上演

松江養成所の修了生」

島根新聞 昭和17年3月27日（金）

松江社会保健婦養成所修了式は26日午前11時県立松江高女講堂で開催、松岡県学務部長から修了証書を授与された修了生達■■■農村

文■第一戦に乗り出すこととなったが午後一時から保健婦劇を催して「保健相談所」、「家庭訪問」、「農繁託児所」、「遺家族」を上演し盛会であった。

4. 6ヶ月間の町村実習

一期生は養成所に入所後1年6ヶ月の諸学科を終え、4月から9月まで6ヶ月間の町村実習を行った。その多くは山間僻地で、何キロも歩いたり、バスの便も1日1～2回往復のみといった不便な地域がほとんどであった。民家の下宿し、自炊しながらの実習であったが、まだ電灯も点かずランプを使っている家もあった。実習地は将来の就職のことも考えて決定された。（島根県立保健婦専門学院・島根県保健婦養成所卒業生会：1985、82）

資料5は、昭和17年3月26日に養成所を修了した一期生の社会保健婦2名が4月8日に大原郡海潮村（現雲南市大東町）に赴任したことを伝える新聞記事である。

資料6は、産業組合新聞の付録として発行された保健特報である。昭和18年1月から19年3月まで、保健婦活動を詳細に紹介している。当時、保健所単位の班会が自主的に持たれており、個々の保健婦の活動まで掲載されている。保健特報では、三刀屋班会の様子と資料5で紹介された保健師が6ヶ月間の町村実習を終え、昭和17年10月に保健婦免状を取得し、赴任先で家庭訪問に励む様子を伝えている。

養成所卒業生の活動を新聞記事で伝えることで、県全体の保健婦活動の業務の統一化とレベルアップが図られていった様子が分かる。

<資料5>

「海潮に保健婦新設」

島根新聞 昭和17年4月10日（金）

大原郡海潮村は今回同村産業組合自治協会、隣保協会協力のもとに社会保健婦2名を設置に決し佐藤光世¹さんと飯塚益世¹さんが8日着任した、近く国民健康保険組合の錬成とともに活動する。（アンダーライン1：養成所一期生）

<資料6>

「保健特報第3号 班速報 三刀屋班報告」

島根産業組合新聞 昭和18年1月11日(月)

雲南三郡を結ぶ三刀屋班は、今秋めでたく国家の保健婦として、巢立たれた9名の方々と、17名大東亜の母、幼児の保育、保健に全力を注ぎつつあります。去る11月28日第3回の班会を三刀屋保健所に開会しました。各自の熱烈なる希望、意見の発表を聞き、当日臨席された三刀屋保健所吾郷先生、木次警察衛生主任、青木部長の共鳴を受け、第四回の開催地及び次回の研究「母乳不足に対する実際的な研究」を約して、3時閉会致しました。次に班員の動静をお報せ致します。

佐藤光世氏・飯塚益世氏

大原郡海潮村産業組合

一家を訪問するのに1日を費やす様な広く不便な山道を2人助け合って、保健報国は銃後の最大勤めと励ましつつ、今日は西、明日は東と計画を立て手、実践遂行県下模範村の保健婦たる自信を以て活動せられてゐます。

5. 実習中に保健婦協会総会で研究発表

島根県では昭和16年11月23日に保健婦協会が結成され、養成所一期生は保健婦免状を未だ取得していなかったが、準会員として加わった。

第2回県保健婦協会総会は昭和17年5月に開かれ、4月から県内各地で町村実習中の生徒も参加した。新聞に掲載された発表者の氏名と養成所関係資料(島根県立総合学院:1998、210)を照合した結果、養成所の講師4名と実習中の一期生9名も保健婦問題や保健婦業務の協議の他、研究発表を行ったことが確認できた。

一期生が実習開始間もない時期に、実習地のさまざまな課題に着目し、現状分析を行い、時に統計的な分析も加えて発表したことは注目し値する。発表のテーマは保健婦活動の推進に関すること、業務改善に関すること、地域の課題に関すること、対策の徹底に関することなど具体的である。一人ひとりの保健婦が日々の真剣な取り組みを情報交換することにより、保健婦活動の基礎作りがなされていった様子が窺え

る。

養成所で保健婦のロールモデルとなった教員は、聖路加女子専門学校で学び、所沢の農村保健館で保健婦事業を实践した永野貞(ながのさだ:旧姓三浦)氏であった。永野氏は島根県保健婦協会の会長となって保健婦教育、卒業生を含めた再教育および研修、会員の親睦を含めた島根県の保健婦活動の基盤作りにも貢献した(島根県立保健婦専門学院・島根県保健婦養成所卒業生会:1985、71)。

生徒らに「基礎調査」や「家庭訪問」の目的を十分に理解させ、「記録」を重視したこと、研究発表を積極的に勧めたことは、既に就業している保健婦のレベル向上にも繋がったことが推測できる。

<資料7>

「県保健婦協会総会」

島根新聞 昭和17年5月24日(日)

第二回保健婦協会総会は23、24両日総会議事堂で開き下記を協議

【保健婦問題】

- ・保健婦協会支部設置(益田)木野下喜久江
- ・研究■話■行同(乙立)岩崎キリ
- ・一年一回の講習賛同
- ・保健婦制服制定(益田)木野下喜久江
- ・保健婦の社会的地位向上(荘原)森脇時代¹
- ・月一回の新聞刊行(井原)笠岡コフミ²

【保健婦業務】

- ・妊婦登録(春植)永井貞子¹
- ・母乳不足対策の徹底(温泉津)岡貞子¹
- ・疫痢予防法の徹底(荘原)森脇時代¹
- ・無医村無産婆村に於ける保健婦の救急処置の限度(飯梨)渋谷初代¹

なほ、勝部萬子さんほか16名から次の通り研究を発表

【一般保健婦活動に関する問題】

- ・荒島村に於ける保健婦活動(荒島)勝部萬子
- ・方面世帯の訪問(松江)永井■子
- ・一学務の取扱い経過(黒澤)兼折總子¹

- ・地方的習慣（窪田）猪子淑枝¹
- ・家庭訪問につきての感想（阿井）
錦織モト¹（簸川）尼崎モリ子
- ・人口統計の基礎調査（岩坂）藤田リシ子
- ・家庭訪問についての感想（乙立）岩崎キリ
- ・栄養上より保健婦に望むもの（松江）
和井兼尾²
- ・漁村見■（松江）古藤文子（三刀屋）
景山絹子

【母性乳幼児保護】

- ・統計より見たる乳幼児死亡率（富山）■谷
■
- ・常設乳幼児保育所に於ける体験（松江）
大谷ヨリ子²
- ・乳幼児検診（大東）石原静子¹
- ・女学校に於ける保健教育（浜田）
中村恵美子²
- ・安田村に於ける乳幼児栄養方法の調査
（益田）木野下喜久江

【結核問題】

- ・熊野村の結核対策（熊野）伊古美糸子 1
（アンダーライン1は養成所一期生）
（アンダーライン2は養成所教員）

6. 農村での実習生の受け入れ

農村の実習地において、実習生はどのように受け入れられたのかを知る手がかりとして、2期生の1人が養成所の講師に宛てた手紙が新聞に掲載されている。保健婦が思ったほど理解されずにいることに、がっかりとした様子が窺える。

実習生は、町村実習では即戦力として期待されているという自負があるゆえに、自分達のことを理解されてないことへの不安を感じたのであろう。

島根県の保健婦養成所は、助産婦、看護婦、保健婦という看護職の中で初めて高等女学校卒業という基礎学歴を入学者に要求したという特徴がある。実習生達は、さらに専門教育を受けながら、看護婦と保健婦との業務の違いについては学んでいるため、地域住民の意識とのギャップに歯がゆさを感じたのも無理はない。しかしながら、住民にとって、見たことも聞いたことも、ましてや世話になったこともないも

のを理解することは、そもそも難しいことである。現代においても、保健師の職能が十分理解されているとは言い難い。

<資料8>

「保健婦の手紙(1) 親しまれない私達」

島根新聞 昭和17年7月24日（金）

松江保健婦養成所 大場敏子

初夏の風そよぐ今日この頃—お懐かしき先生には社会の指導者になる卵の教育のために一生懸命後勉勵のことと推察致します、私達も大元氣です。■■■■14日松江を發つて2時間の後久手駅着、改札口に宿の人が3人出迎えに来て下さいました。軽装で新しい希望を抱きつつ道を歩む足取りも思わずはずんで参りました。数分間歩いたと思った時、迎へに出て下さった人が、“一人ずつでるけえ”といはれました。そのときは何とも言へませんでした、折角遠方まで一緒に来て別れ別れに泊まることは本当に淋しい気がしましたが、これも仕方ありません。「共に誓って頑張るのよ」と元氣良く別れました。夕方食事を終へて町長、助役、社会■科主任今岡さんのお宅へ挨拶に行きました、何れも気持ちよく挨拶して下さいました。町の人も保健婦といふものの性質をよく理解して居られます。

でも駅からの帰り途連れの小母さんから何処から来たのかと聞かれ「松江の保健婦養成所から来ました」「何をしにかの」・・・等々問答の末「ああ簡易保険をすすめるのかの」と云はれてしまいました、もう面食らってしまった何も言葉が出ませんでした「先生」「看護婦さん」「大場さん」色々な呼び方をされますが、看護婦さんと呼ばれると少々癪にさはります。でもまだまだ看護婦ほど世間から親しまれては居ません。

7. 家庭訪問時の乳児の様子

当時の農村は、昭和初期の世界大恐慌のあおりを受けて、米も生糸も暴落し極度の貧困にあえいでいた。特に、島根県では栄養状態や労働環境が悪く、昭和14年には全市町村の3分の1

の町村が無医村であって医療にも恵まれていなかった。昭和14年の出生率は島根県25.0（全国26.6）（人口千対）、乳児死亡率は島根県12.4（全国10.7）（出生百対）で、死産率や妊産婦死亡率も高かった（島根県立保健婦専門学院・島根県保健婦養成所卒業生会：1985，32-39）。

資料9は、養成所一期生の実践記録である。家庭訪問では、生活環境の劣悪さに圧倒されつつも、まずは住民の生活を受け入れ、その上で少しでも乳児にとって良いことを探っていこうとする姿勢が感じられる。

<資料9>

「私の保健婦活動」

元出雲市役所勤務 布野文枝
（日本看護協会保健婦部会島根県支部 島根県保健事例集第1号 ともしび 61-65 昭和53年から抜粋）

子供の“す”

出雲地方の農山村の乳児は、ほとんどといってよいほど敷布団でしっかりとくられた“す”という中に坐らされていた。夏の暑い時も冬の寒い日も、子供のために保温器具を使うでもなく、おしめが布団の背中に入れてあるのが、せめてもの母親の愛情だったろうと思う。

薄暗い納戸の隅にくくられて置かれ、ねむくなれば布団の間に少し顔を隠すようにして眠っていた。敷き布団の真中に、小さな座布団（小便布団）を乗せ、その上に着物のすそを少し上にあげて坐らせ、背中の布団を前に回し、前の布団を後ろに回して、しっかりと赤ん坊を包み、兵子帯か腰ひもで二重ぐらいに結んであった。これを部屋の隅や柱の前に坐らせ、野良から帰ったら、裸足でも縁から手を伸ばして抱けるようにしてあった。納戸は北の部屋で、冬は障子の破れから入る風が、悲しい音楽を奏で、夏ははえとのみが飛び、部屋の隅は、棉屑のようなほこりがしていた。

訪問すると、腰のすっかり曲がったおばあさんが“す”を私の前に置く。布団をほどくと、しっこと乳の臭いと汗臭さのなかで、赤ん坊

は、蒸し器の中から出したみたいに、腰から下は冬でも湯気が立っていた。夏は、その中からのみ飛び出し、顔や頭は追うても追うても、はえがきてとまる。なれるまでは吐き気がしそうだった。でも、おばあさんが、必ず「まアまア。すまんことです」と、着物の着替えと手洗いを持ってきて、その子の着物を着換えさせ、手洗いを進めて、「さあ、きれいになりましたから、見てやって下さい」と、改めて私に渡してくれた。

留守番のない子は、戸を開けると、布団の間に亀の子というほ乳びんに、長いゴム管に乳首のついたほ乳びんを固定させたのをくわえて眠っていた。1日の大半を布団の中でくまれている子を、なんとか少しの時間でも日に当たる所に出したいと、できるだけ南の縁に連れ出して話をするようにしていた。

Ⅲ. 結 論

島根県の保健婦養成が、当時教育の場である高等女学校で、しかもその卒業生を対象としたことは極めて異色で、県内外の注目を浴びた。当時は、保健婦活動に対する社会の認識は極めて低く、かつ正しいものでなかったため、偏見や誤解が卒業生達を悩ませた。当時の新聞記事を見ると、保健婦活動に対する社会の認識を向上させるため、意図して好意的な紹介記事が書かれている。

農村の「あるがまま」の姿を正しくつかむ事こそ科学する態度と教えられた、と卒業生の錦織は述べている（島根県立保健婦専門学院・島根県保健婦養成所卒業生会：1985，121）が、現代に通じる名言である。

保健師が、住民と共に行動し、生活の場で共に考える姿勢を持ち続け、いつの時代にあっても親しまれ、頼りにされる存在であることを願いたい。

文 献

加茂町合併70周年・閉町記念誌編纂委員会編（2005）：加茂町合併70周年・閉町記念誌ふるさとわがまち、18-24、雲南市加茂総合

センター，島根.

金子光 (1994) : 看護の灯 高くかかげて一金
子光回顧録, 67-72, 医学書院, 東京.

厚生省健康政策局計画課監修 (1993) : ふみし
めて五十年—保健婦活動の歴史—, 4-17,
日本公衆衛生協会, 東京.

日本看護協会保健婦部会島根県支部 (1978) :
ともしび 島根県保健婦事例集第1号, 61-
65, 日本看護協会保健婦部会島根県支部,
島根.

島根県立保健婦専門学院・島根県保健婦養成所
卒業生会 (1985) : 草分けの保健婦養成,
島根県立保健婦専門学院・島根県保健婦養
成所卒業生会, 島根.

島根県産業組合新聞 (1943) 附録 保健特報第
3号.

島根新聞 (山陰新聞から改題) (1942) : 島根県
立図書館所蔵, マイクロフィルム版を使用
島根県立総合看護学院 (1998) : 閉校記念誌看
護の礎, 52-53, 島根県立総合看護学院,
島根.

大国美智子 (1973) : 保健婦の歴史, 97-167,
医学書院, 東京.

The History of Early Public Health Nursing Education in Shimane Prefecture

Noriko OCHIAI and Toshiko KURUITANI*

Key Words and Phrases : public health nursing education, seasonal nursery school, drama of public health nurse, nursing practice in farming village

* The University of Shimane Junior College Matsue Campus